

H I C 通信

Vol. 115

January 2022
Hiroshima
International
Center



ひろしま留学大使の日本文化体験(門松づくり)

目次

P2 県内留学生が紹介!「私の国と日本」

P3 事業報告

交流部

広島県留生活活躍支援センター

P8 研修部トピックス

P9 コラム

Hello Hiroshima

イベント・講座案内

Upcoming Event News

P10 多文化共生の視点で地域を活性化する

P11 JICALレポート

こちら JICA 中国

私の玉と日本

台湾編

県内の留学生から母国と日本の様々な違いについて紹介してもらいます!



留学生紹介

李 勁徳さん

皆さん、こんにちは。尾道市立大学のリキントクです。出身は台湾です。今年で尾道に留学して3年目になります。大学院の経済情報研究科で産業連関分析を使って、台湾を訪れる外国人旅行客が台湾経済にどのくらいの影響を与えたのかを研究しています。この記事は1月に発行して、ちょうど台湾のお正月に近づくので、我が家の過ごし方をご紹介します。



尾道「ベッチャー祭」

台湾の旧正月——我が家の過ごし方

今の台湾は日本の風習、文化と融合して、形成されてきましたが、違う所もたくさんあります。今回はその中、お正月の過ごし方をご紹介します。

お正月前にする事

春節：「春節」は「お正月」の意味です。台湾のお正月は、新暦の1月1日ではなく、旧暦の1月1日を指します。だいたい毎年新暦の2月上旬前後で、2022年は2月1日です。

また、台湾では旧暦の年越しのことを過年（グウォニエン）と言います。

貼春聯：「春聯（チュンリエン）」は新年になって新しく貼り直された玄関に貼る赤い紙です。普通は2種類あります。一文字だけの赤い紙と、長い赤い紙が3枚1セットとなるものです。一文字だけの赤い紙は「春」や「福」と書かれているのが定番です。特に、「春」、「福」は逆さまにし、中国語では

「春が到来する」、「福が到来する」の意味になります。また、3枚長い赤い紙は貼る場所によって、内容が変わります。家なら家内安全、会社なら商売繁盛を祈願する内容を貼れば良いです。

ちなみに、春聯は一般的に市場や、文房具屋さんで印刷されたものを購入しますが、我が家は時々自分で春聯を書きます。綺麗な文字を上手に書けないですが、毛筆で春聯を書くのは結構面白いし、自分で家を飾るのも大いに意義があります。

大掃除：年末大掃除は過去1年の悪運を「掃く」し、良い年を迎える意味がありますが、大掃除も毎年うちの母親が一番悩むことです。

大晦日の夜にする事

除夕：「除夕（チュウシ）」は旧暦の大晦日です。2022年は1月31日です。「除夕」で一番重要なことは家族全員で「年夜饭（ニエンイエファン）」を食べることです。「年夜饭」は大晦日に家族が集まって食卓を囲んで、一緒に美味しいご飯を食べるということです。我が家では、鍋料理、蘿蔔糕、魚料理が定番です。



年夜饭（ニエンイエファン）

蘿蔔糕：「蘿蔔糕（ローボーガオ）」とは日本の大根餅です。外はカリッと、中はもちもちとした食感です。そして、酢醤油や葱のみじん切り・豆板醤を混ぜた醤油などをつければ最高です。



蘿蔔糕（ローボーガオ）

魚料理：中国語で、「年年有餘」（ニエンニエンヨウユ）の「餘」の発音は「魚」と同じです。また、「年年有餘」は、毎年年末に、稼いだお金にまだ余裕があるという意味です。なので、魚を食べたら、余裕のある新年がきますように、という意味があります。

紅包：「紅包（ホンパオ）」はお年玉の意味です。台湾でも大晦日に大人が子供にお年玉をあげますが、逆に大人になった子供が親に渡すこともあります。また、子供がお年玉をもらう時、新年の挨拶を言います。

新年快樂（シンネンクワイラー）！＝明けましておめでとうございます！

恭喜發財（ゴンハイファッチョイ）！＝お金が儲かりますように！

万事如意（ワンシールウイー）！＝すべて意のままに進みますように！

ただ、うちの母親が一番聞きたい言葉は「美しさは永遠18歳のように」です。

最後に

振り返れば、広島に留学した3年間では、たくさん立派な人々と出会って、日本の歴史と文化などをいっぱい学びました。しかし、自分の中で、大いに感じることは、意外と、自分が生まれた土地——台湾の価値と魅力を再認識したことです。なので、これからは、日本留学で培った様々な能力や知識を活かし、台湾の良さを世界に伝えてゆきたいと思います。



瀬戸内サイクリングへ



台湾の祭り「媽祖遶境」で

交流部

Report 1 HIC世界体験デーを開催しました

10/31(日)に、ひろしま国際センターにて、HIC世界体験デーを開催しました。このイベントは、異文化理解や国際交流を目的として、外国の音楽や舞踊などを楽しめる芸能披露のステージや、世界の国にちなんだワークショップ、いろいろな国出身の外国人と実際に話してできるブース、アフリカ布を使った雑貨などを扱うブランドjam tunのバザーなどを用意しました。

約250名の来場者に来場いただき、親子連れの方の多くは、1つ1つのブースを回って長く滞在していただいている様子でした。また、今年はハロウィンの日だったため、ハロウィンにちなんだ飾りつけやイベントも行いました。魔女が現れてお菓子を配る演出には、会場の子も大盛り上がりでした。ご協力くださったボランティアの皆さま、来場者の皆さま、ありがとうございました。来年のHIC世界体験デーもお楽しみに！



ブラジル国技のカポエイラ披露



メキシコ「死者の祭り」のお面作り



インドネシアブース

交流部

Report 2 グローバルキャリアセミナー(第3回)を開催しました

グローバルキャリアセミナーは、主に広島県内の学生を対象に(一般の方も参加可)、国際関係の仕事に携わる方を講師に迎え、仕事の体験談や、国際関係の仕事に就くための秘訣を語ってもらうもので、本年度第3回目のセミナーを10月24日(日)にオンラインで開催しました。今回は、「開発コンサルタント」をテーマに取り上げ、一般財団法人海外コンサルタンツ協会の河野敬子さんと、株式会社コーエイリサーチ&コンサルティングの渡辺聖也さんにご講演いただき、広島県内の高校生や大学生を中心に33名の方が参加しました。

開発コンサルタントの仕事について詳しく話してもらった他、講師の二人の学生時代のお話や仕事の経験談を基に、参加者へ具体的なアドバイスをいただき、寄せられた質問にも多くお答えいただきました。



一般財団法人海外コンサルタンツ協会 河野敬子氏



株式会社コーエイリサーチ&コンサルティング 渡辺聖也氏

交流部

Report 3 第2回,第3回国際理解講座(オンライン)を開催しました

11月14日(日)に第2回国際理解講座「パレスチナの今を知り、平和について考える」を開催し、講師として広島市立大学国際学部 准教授 田浪 亜央江さんと国境なき医師団日本 西岡 憲吾さんにご講演いただきました。また、11月27日(土)に第3回国際理解講座「ミャンマーの今を知ろう」を開催し、国際交流基金ヤンゴン日本文化センター 小西 広明さんと認定NPO法人れんげ国際ボランティア会ヤンゴン事務所(ARTIC) 工藤 絢花さんに講師として話してもらいました。

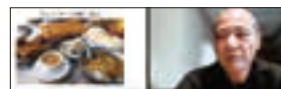
この講座は、主に中高生や大学生を対象に今世界で起きている様々な問題を、専門家の方から分かりやすく解説していただき、問題の本質を理解するきっかけ作りを目的としています。広島県内外合わせて約110名の方が参加し、問題の歴史的背景や現地での様子などについて講師の方から解説いただきました。また、参加者の方から多くの質問が寄せられ、ニュースだけでは分からないことを学べる大変貴重な機会になりました。



広島市立大学・田浪氏



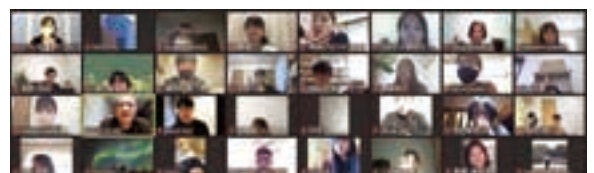
国境なき医師団日本・西岡氏



国際交流基金ヤンゴン日本文化センター・小西氏



ARTIC・工藤氏



受講の様子

交流部

Report 4 ワンペア日本語学習支援ボランティア講座(オンライン)を開催しました

外国人住民と1対1で日本語学習をする、ワンペア日本語学習支援ボランティア登録者の内、まだペアを組んで学習したことのないボランティアに参加いただき、『やさしい日本語』を学びました。やさしい日本語に置き換えるグループワークでは、どうすれば相手に伝わりやすい表現になるのか様々な意見を聞くことができました。やさしい日本語以上に、対話を通じて相手を知ることの大切さに気付かされた講座になりました。



受講の様子（講師：ひろしま国際センター 犬飼康弘講師）

交流部

Report 5 医療通訳ボランティアスキルアップ研修

12月12日（日）に医療通訳ボランティアを対象とした研修を実施しました。午前中は通訳技術の基礎の講義、午後からは模擬通訳（英語、中国語、タガログ語、ベトナム語、ポルトガル語）をオンラインで行いました。下の写真は、模擬通訳を行っている様子です。診察室でのやり取りを、医師役、患者役、通訳者でロールプレイしています。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、研修はオンラインに切り替えて実施することになり、当初はオンラインでの通訳に戸惑われる方もいらっしゃいましたが、今では皆さま慣れて来られたようで、今後遠隔通訳が必要とされる場面での活躍も期待しています。

参加いただいた医療通訳ボランティアの皆さま、ありがとうございました。



奥から医師役、患者役。右手のスクリーンは通訳者。

交流部

Report 6 令和3年度 奨学金決定通知書授与式・奨学生交流会を開催しました

当センターでは、県内の企業・団体や県民の皆様から寄附金を募り、外国人留学生に奨学金を支給しており、令和3年度奨学金決定通知書授与式・奨学生交流会を12月9日（木）にホテルセンチュリー21広島にて開催しました。この交流会は、奨学生と協力企業・団体との交流を目的として開催していますが、昨年度に続き、本年度も新型コロナウイルスの影響により7月の交流会が中止となり、今回が本年度唯一の交流会となりました。奨学生の発表では、エリザベト音楽大学の留学生にギターとヴィオラの演奏をしていただき、会場の皆さんは素敵な音色に聴き入っておられました。



奨学金決定通知書授与



エリザベト音楽大学による演奏



永年協力企業への感謝状贈呈



奨学生と協力企業との懇談

交流部

Report 7 多文化共生セミナー 誰ひとり取り残さない災害対応

12月11日（土），一般財団法人ダイバーシティ研究所代表理事の田村太郎様を講師にお招きし，「多文化共生セミナー 誰ひとり取り残さない災害対応」をオンラインで開催しました。まず始めに，広島県災害多言語支援センターについて当センターから説明し，その後田村様にご講演をいただきました。

講演では，過去の災害対応の事例や，ご自身の被災者支援の経験をもとにお話いただき，災害時の外国人の悩みや課題，そして外国人を支援の対象とするだけでなく，支援の担い手として活躍してもらうことなど，大変気付きの多い内容で，参加者からも多くの質問や感想をいただきました。

当センターでは，今後も引き続き研修や訓練などを実施し，広島県災害多言語支援センターの円滑な運営に向けて取り組んで参ります。

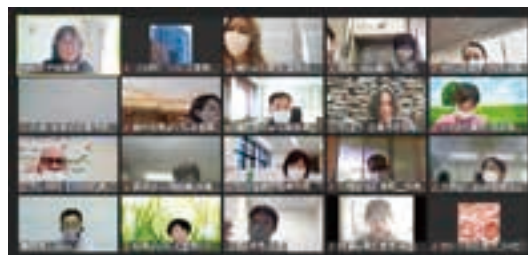


交流部

Report 8 外国人相談員研修会を開催しました

講師として，（公財）兵庫県国際交流協会スペイン語通訳相談員であり，クリア（自治体国際化協会）の地域国際化推進アドバイザーでもある，村松紀子氏をお招きし，県や市町の外国人相談の窓口等において応対する担当者が，相談を受ける際の注意点や技法を学びました。コロナウイルス感染防止のため，Zoomを使用したオンラインでの開催となりましたが，現役相談員である村松氏のお話に熱心に耳を傾けている様子がよくうかがえました。

開催日：10月8日，10月15日，10月22日
参加者：合計56名



10月15日研修の様子

留学生活躍支援センター

Report 9 就職活動実践セミナーを開催しました

11月13日（土）ひろしま国際プラザ（東広島会場），11月21日（日）ひろしま国際センター（広島会場），12月12日（日）福山市西部市民センター（福山会場）にて，外国人留学生を対象とした「就職活動実践セミナー」を開催しました。広島会場では，オンラインでの参加者もあり，ハイブリッド形式で行いました。

当日は，就職活動の流れ，日本企業の文化やエントリーシートの書き方等について学んだ後，実践を行いました。実践では，各々が自己分析をし，一人ずつ1分間で自己PRを発表しました。みなさん真剣に取り組んでおり，各自エピソードを交えながら，うまく文章をまとめていました。

みなさんの希望が叶うことを心から応援しています！



就職活動実践セミナー（東広島会場）



就職活動実践セミナー（広島会場）



就職活動実践セミナー（福山会場）

留学生活躍支援センター

Report 10 大学体験入学会を開催しました

10月19日（火）に広島修道大学、10月28日（木）には県立広島大学・広島市立大学・鞆啓大学を訪問しました。

修道大学コースでは県内の日本語学校生6名、県立広島大学・広島市立大学・鞆啓大学コースでは県外も含め12名の日本語学校生にご参加いただきました。

大学の特色や入試制度の説明を聞いたり、先輩留学生に直接質問したりして、それぞれの大学についてより深く知ることができました。またキャンパスの見学や模擬授業の体験もさせていただき、大学の雰囲気も味わうことができました。

9月まで続いた緊急事態宣言の影響もあり例年より希望者が少なく、中止となってしまったコースもある中での開催でしたが、参加した学生からは「学校について詳しく教えてもらえてよく分かった」「先輩と話せたことがよかった」などの感想が聞かれ、体験入学会だからこそ得られたものも多かったようでした。



鞆啓大学（大学紹介）



広島市立大学（施設見学）



県立広島大学（先輩留学生との交流）



広島修道大学（模擬授業）

留学生活躍支援センター

Report 11 「入社準備セミナー」・「就職内定した留学生との交流会」を開催しました

12月19日（日）に、来年4月から日本企業へ入社予定の留学生を対象とした「入社準備セミナー」を開催し、日本企業から内定をもらった留学生7名が参加しました。

このセミナーでは、午前中にビジネスでの日本語表現やマナーを、午後からは在留資格の変更手続きや給与明細の見方など、入社前に行っておく手続きや知っておきたいルールについて学びました。参加留学生は、使い慣れない言い回し等に苦労しながらも、積極的に取り組んでいました。

入社準備セミナーの後は、現在就職活動を行っている留学生8名が合流し、「就職内定した留学生との交流会」を開催しました。

就職活動中の留学生たちは、日本語や母国語で、就職内定をした留学生の体験談を熱心に聞き、就職活動のアドバイスをもらったり、不安や悩みを相談していました。



就職内定した留学生との交流会

留学生活躍支援センター

Report 12 『「自分」再発見プログラム』を開催しました

11月27日（土）～28日（日）の2日間、東広島市にあるひろしま国際プラザで、1泊2日の研修『「自分」再発見プログラム』を開催しました。

今回が初めての開催となるプログラムで、広島県内の8大学1高等専門学校から留学生20名が参加しました。このプログラムは、共同作業を行いながら、周りの人の色々な考え方や価値観を知ること、新たな発見や自分自身を見つめ直すきっかけを作ってもらい、グループワークを通してコミュニケーション能力や日本語力を高めることを目的として開催しました。1日目に各グループで決めたテーマを基に、2日目は街へ繰り出し、地元の方や観光客の方へインタビューを行い、調査結果をまとめて発表を行いました。

2日間の共同生活の中で、参加者は学校や国籍の枠を越え、交流を深めており、楽しみながら課題に取り組んでいました。仲間と一つのことを成し遂げることで、色々なことを学んでくれたのではないかと思います。

参加してくれた留学生のみなさん、そして突然のインタビューにも関わらず、快く受けてくださったみなさま、どうもありがとうございました。



参加者集合写真



インタビューの様子

留生活躍支援センター

Report 13 留学生と尾道商業高校生, 加計高校生との交流会を開催しました

10月30日(土)に広島県立尾道商業高等学校で文化交流会, 11月9日(火)に広島県立加計高等学校で食文化交流会がありました。

尾道商業高校では, 高校生約30名と留学生13名が参加し, 留学生は自国の歌を歌うなどして母国紹介をしました。尾道商業高校の生徒からは, 尾道の観光スポットなどを英語で紹介していただいたり, 尾道の踊り「ええじゃん」のパフォーマンス, 松茸ご飯を作ってくださいたりと様々なおもてなしをしていただきました。交流会後はガイドさんと千光寺公園散策をしました。

加計高校では, 高校生約40名と留学生9名が参加し, 留学生の母国の料理を高校生と一緒に調理しました。中国からは, 鸡蛋餅(お好み焼き), 生姜牛乳プリン, ニンニクの芽と肉炒め, 麻婆豆腐, エビのトマトソース炒め, 韓国はチーズダッカルビ, インドネシアはテンペ・ゴレン, ペルーはロモ・サルタード(牛肉と野菜の炒め物), ケニアはウガリ(固練り粥)を調理しました。日本人にあまり馴染みのない食材や調味料を使い, 食材の切り方や加熱方法など留学生が率先して生徒に教え, 貴重な交流会になりました。



調理の様子

調理の様子



広島県立尾道商業高校校門前にて

留生活躍支援センター

Report 14 留学生交流イベント(11/7(日)帝釈峡・11/20(土)豊栄)

『合同会社ひとむすび』とコラボし, 11月7日(日)に帝釈峡ツアーを開催しました! 広島県内の留学生21名(うち2名は通訳ボランティア)が, 上帝釈峡と神龍湖を散策しました。鍾乳洞である白雲洞を見学したり, 国の天然記念物である雄橋の説明を聞いたりしながら, きれいに色づいた紅葉を楽しみました。

また11月20日(土)には, りんごづくしの豊栄ツアーも開催しました! 参加者21名(うち通訳ボランティア1名)が参加してくれたこのツアーでは, 小石川観光りんご園さんでりんご狩りをしたあと, 「野菜Labo」の田野実温代さんに教わりながら, そのりんごを使ってサラダとパイも作りました。皮をむくのには苦戦しましたが協力しながら無事完成し, みんなで出来立てをおいしくいただきました。



りんご料理教室の様子(東広島市豊栄町)



小石川観光りんご園で記念写真(東広島市豊栄町)



紅葉の前で(帝釈峡)

留生活躍支援センター

Report 15 「留学生交流事業 in あきつ」を開催しました

12月11日(土)に, 東広島市安芸津町で留学生交流イベントを開催しました。広島県内の留学生32名と日本人学生14名が参加しました。

当日は, イベントのコーディネーター「INOSHISHIYAH/猪家」の清水さんから, 安芸津町の紹介をして頂いた後, 地元の農家「甲斐農園」さんの協力を得て, 2班に分かれて町の特産品であるジャガイモをはじめ, みかん・レモンの収穫や, レモンシロップ作りを体験しました。赤土で栽培されたジャガイモは, ミネラルが豊富でとても甘いそうです。参加者は, 畑からゴロゴロと出てくるジャガイモを夢中で掘っていました。また, 無数に実ったみかん畑や, 農家さんこだわりのアーチ状にアレンジされたレモン畑では, ひとつひとつ丁寧に収穫をおこない, 収穫したレモン2つを使って, シロップを作りました。昼食休憩を取った「瀬戸内ゴルフリゾート」は, 高台からの景色がとてもきれいで, 参加者はテラス席などで思い思いの時間を過ごしていました。当日は, 天気がとても良く, 体験日和の一日となりました。

貴重な体験をさせて頂いた「INOSHISHIYAH/猪家」の清水さんやスタッフのみなさん, 甲斐農園さん, 参加してくれた留学生のみなさん, どうもありがとうございました!



じゃがいも掘りの様子



みかん畑にて



レモンシロップ作り



集合写真(道の駅たけはら)

ひろしま国際センター研修部で、今秋に実施したプログラム・取り組みをご紹介します。プログラムの実施にあたっては、新型コロナウイルス感染拡大防止策を適切に講じています。

その1 Kids' English Academia OUTDOOR【東広島市からの受託事業】

10月17日（日）に、半日留学体験ができる「Kids' English Academia」の屋外版「Kids' English Academia OUTDOOR」を東広島市の憩いの森公園で開催しました。元々夏休み中に予定していたイベントでしたが、新型コロナの影響で延期となり、参加者にとっても待ちに待った開催となりました。

参加者は、小学校3～6年生41名で、6つのグループに分かれます。各グループのリーダーを務めるのは、県内のALT（外国語指導助手）や留学生。リーダーや仲間と力を合わせて、ルート上に



仕掛けられた9つのミッションをクリアしてゴールを目指します。参加者は水鉄砲や大縄とび、英語の早言葉などの様々なミッションに挑戦することで、楽しみながら英語に触れることができました。「ミッションが楽しかった!」「時間

が足りなかった、もっとやりたい!」など嬉しい感想も寄せられ、満足度の高いイベントになりました。3月には、ひろしま国際プラザで今年度2回目の実施を予定しています。屋外とは違ったわくわくに期待!



その2 防災フェスタ

11月13日（土）、東広島市に住む外国人13名が「防災フェスタ」に参加し、災害から身を守る方法や防災グッズの作り方を学びました。

まず午前中は、東広島市福富町の「きこりや」で木製のスマホスピーカー作りに挑戦。初めての工具を使って上手に仕上げます。一見防災とは無関係に思えますが、電池を使わないスピーカーなので災害時にも便利と聞いてみんな納得。早速音楽をかけて踊りだしそうな人もいました。

午後からはワークショップです。防災士の井上さんに、自宅周辺のハザードマップの読み方を教えていただきました。川が近くにあ

る人は、「大雨の時どうしよう」と不安そうでしたが、どこに逃げるか、いつ逃げればよいかも教えていただきホッと一安心。その後、新聞紙スリッパを作ったり、ペットボトルランタンなどを体験して歓声をあげたりと、有意義で楽しいワークショップとなりました。

皆さん、災害時には、学んだことを活かしてくださいね。



Hello Hiroshima

Vol.114 October 2021



**Hello Hiroshima!
Aya here!**

Aya
(Hiroshima Prefectural Coordinator
for International Relations)

I hope you are all staying cozy this Hiroshima winter, and that you're reading this from a nice and toasty kotatsu with a cup of warm tea!

I am writing this in November, with every intention (and the plane tickets) to fly home and visit my family and friends in the US for the first time in 2 years.

I hope that by the time you are reading this, I am already back in my childhood home in Berkeley California, sitting on my mom's sofa, the living room twinkling with Christmas lights and my tabby cat named Pickle (in my defense, I named her at the wee age of 7 haha) purring on my lap. However, at the same time I feel some hesitation to let myself hope.

I think many expats can relate to the stress of the last 2 years, the suppression of homesickness, the near constant checking of travel bans, case numbers and alarmist headlines. And then to handle said stress, aggressively compartmentalizing it in our everyday lives. But then there will be trigger, like the possibility of visiting home, or a relative getting sick, when the baggage of the last 2 years suddenly becomes visible to you again, even though it was there all along.

The COVID-19 variant Omicron has just started making the global news this past week, and I know many expats (including myself and friends) are lugging around extra stress with us as we go about our lives this week.

I acknowledge my privilege and am grateful that I can afford to visit home at all, when many cannot, especially during the pandemic. I am also incredibly lucky to have a wonderful community and a second home in Hiroshima as well! But I still really miss my family, friends and the West Coast, and I hope I can see them soon. I'm sure many of you feel the same way.

Wishing you all a happy holidays, spent where you want and with who you want. However if that's not possible, I see you and your homesickness and your struggle, and know you are not alone. Have an extra bottle of champagne or slice of Christmas cake, because you definitely deserve it!!

Catch you guys on the flipside in 2022!



Upcoming

Event News



からふる カフェ

毎月第1日曜日に駅前で開催し、多様な在住外国人と日本人が集い、喫茶、軽食を摂りながら交流を楽しみ整体師の健康教室や生活相談や制度説明もある。

日 2月6日(日) 時 10:00~15:00 定 15人
場 JR廿日市駅前サポート一番館3F 費 無料
問 市民グループええじゃん 担当者: 栗林(くりばやし)
TEL: 090-6436-0200 mail: kkurisan555@gmail.com

第19回 国際交流フェスタ in くれ

地域住民と在住外国人の異文化理解と交流を図るためのイベントです。多言語スピーチや民族衣装のファッションショーなど華やかなステージプログラムもあります。ぜひお越しください!
また、2月19日(土)14時から(予定)、カメルーン出身で漫画家「星野ルネ」さんのトークショーを開催します。

日 2月20日(日) 時 13:00~16:00 費 無料 場 呉市役所1階
問 呉市国際交流協会
TEL: 0823-25-5607 mail: kurekiea@gmail.com

※新型コロナウイルスの感染状況によっては、イベントが延期又は中止になる場合があります。事前に主催者に確認してください。



多文化共生の視点で 地域を活性化する



次の言葉についてご存知ですか。

● **「多文化共生」「外国人労働者」「技能実習・特定技能」**

多くの方が一度は耳にしたことがあるのではないのでしょうか。

では、次の質問についてはどうでしょうか。

● **「多文化共生」について取り組んでいることはありますか？**

● **広島県に住んでいる外国人労働者のこと（生活環境等）を知っていますか？**

答えることができる方はかなり減ったのではないかと思います。

厚生労働省広島労働局によれば令和2月10月末現在37,707人の外国人労働者が広島県で働いています。少子高齢化が進む日本において外国人労働者は日本の産業を支える上で不可欠な存在となっています。一方で、地域に住む外国人への理解は十分でしょうか。外国人労働者から『選ばれる日本』となっているのでしょうか。外国人労働者も職場を出れば労働者ではなく、地域の一住民です。労働環境の課題について注目される機会は増えてきましたが、普段の生活環境についてはどうでしょうか。母国を離れ日本の地域で暮らす人たちへの理解は十分でしょうか。知らず知らずのうちに傷つけてしまっていないでしょうか。

外国人労働者に『選ばれる日本』になるには労働環境の改善だけではなく、生活環境の改善も重要です。そして、生活環境の改善に向けては受け入れ企業だけではなく、地域に住む一人ひとりが行動することが重要です。相手を理解し、ともに良い地域を作っていくことが外国人労働者の生活改善、そして地域の活性化につながっていくことにつながります。

JICA中国では今年度大学生・大学院生・高専生（4・5年生）向けにフィールドワーク合宿を実施し、地域において主体的に多文化共生の実現に向けて行動できる人材の育成に取り組みました。フィールドワークでは課題解決（計画）手法についての講義、外国人材へのインタビューを通じた課題の分析、そして課題解決に向けたイベントの企画等を行いました。フィールドワーク参加者が企画したイベントは2021年10月24日（日）に因島体育センターで開催され、因島に住む外国人約20人、因島に住む高校生を中心とした日本人の若者約20人計40人が参加しました。



イベントはジェスチャーゲームや大縄跳びなど手作り感満載の内容となりましたが、国籍に関係なくあらゆるバックグラウンドを持った人たちが一つになって楽しんでおり、会場は笑顔であふれていました。この光景が当たり前になるよう多文化共生の実現に向けて様々な関係者とともに取り組んでいきたいと思います。

JICA中国



広島から世界へ! いつか世界を変える力になる!

広島から世界へ! 現在(2021年11月30日時点)、広島県出身の
JICA海外協力隊8名が世界で活躍しています!



■現在赴任中の広島県出身 JICA海外協力隊(名)

区分	男性	女性	合計
青年	6	1	7
シニア	0	0	0
日系青年	1	0	1
日系シニア	0	0	0

2021年11月30日時点

<JICA海外協力隊>

「自分の持っている技術・知識や経験を開発途上国の人々のために活かしたい!」という強い意欲を持つ20歳~69歳の日本国籍を持つ方が対象のボランティア事業です。派遣は原則2年間。衣食住を現地の人とともにしながら、互いに理解を深め、同じ目線で途上国の課題解決に取り組めます。また、帰国後も現地での経験を日本の地域や世界の発展に役立てることが期待されています。そんな草の根レベルのボランティアに、あなたも参加してみませんか?



帰国隊員レポート

~ルワンダ篇~

職種: 理科教育 室伏 千尋さん



ルワンダ

アフリカの中部に位置する内陸国。
【概要】面積: 26,300平方キロメートル
人口: 1,263万人 (2019年: 世銀)
首都: キガリ
言語: ルワンダ語, 英語 (教育言語), フランス語, スワヒリ語
宗教: キリスト教 (カトリック, プロテスタント), イスラム教

現地での活動内容

首都キガリのはずれにある小中高一貫の公立学校で理科教育の活動をしました。塾でのアルバイト経験はありましたが教員免許はなく、またルワンダの公用語は英語で、学校の授業も英語で行うことになっていました。ただ、実際に行ってみると8割程度の生徒はあまり英語を理解しておらず、難しい状況でした。同僚と一緒に化学の実験の授業を教えたり、他の隊員と一緒に、実験の授業のワークショップを開いたり、バナナの木で紙すきを行う体験型授業のワークショップを開いたりしました。また、理科以外にも英語や数学を教えたり、英語に少しでも興味を持ってもらえるよう英語新聞を作ったりもしました。その他にクラブ活動として趣味だったネイルアートを教えて、職業訓練の一環として、実際にマーケットに出店もしました。



▲理科の授業



▲Beauty Club (ネイルクラブ) マーケット出店時

ルワンダってこんなところ!

「千の丘の国」と呼ばれるルワンダは、その名の通りいくつもの山の上にある国です。一般的によく想像される、暑くて砂漠やサバンナが広がるようなアフリカのイメージとは全く異なり、緑豊かで一年中平均気温25度前後と、とても過ごしやすいところ。ルワンダと言うと、今でも虐殺を連想される方が多く、「治安は大丈夫なの?」とよく心配されましたが、今はアフリカの中で一番治安がいいと言われています。和解の一環として、ウムガンダと呼ばれる地域の奉仕活動が月に1回あり、地域の人達が協力して草刈りや道路整備などを行います。ルワンダの人はアフリカの中でも比較的日本人に似ていると言われ、シャイで物静か、喧嘩が嫌いな優しい人が多い印象です。



▲ウムガンダの様子



▲任地の景色



ルワンダの食事

ルワンダンビュッフェと呼ばれる、ビュッフェスタイルの食事があります。お米やスパゲティ、ポテト、バナナ、豆、サラダ、煮込み料理などが並びます。日本と違うのは、ビュッフェだけで1回しか取りにいけないところ。現地の方はお皿に山盛りに盛り付けます。またプロシエットと呼ばれるヤギの串焼きや、ジンガロというヤギの腸をグルグル巻きにしたものもよく売られていて、ビールと一緒に食べるととっても美味しいです。



▲プロシエットとビール

室伏 千尋さんプロフィール

・愛知県出身。名古屋の理系大学院を卒業後、自動車関連メーカーに2年半勤務。その後2018年1月より、ルワンダにて理科教育の隊員として活動する。現在は、結婚して広島県神石高原町に移住し、ヨガインストラクターとして活動している。

参加のきっかけ

中学生の頃、授業やテレビなどで途上国の話を聞き、海外支援に興味を持つようになりました。しかし、何をすればいいのかわからないまま、具体的な仕事をするイメージが湧かないまま、なんとなく得意だった理系に進み、そのまま周りの人たちと同じようにメーカーに就職しました。働きはじめてみて、「このまま60歳までなんとなく仕事をするだけの人生は嫌だな...せっかくなら自分のやりたかったことに挑戦したいな...」と思うようになり、昔から興味を持っていた青年海外協力隊への参加を決意しました。

参加して思うこと

2年間のルワンダでの生活は、日本で当たり前とされていることが、世界では必ずしも当たり前ではないという大きな気づきを与えてくれました。どちらの国がいい、悪いではなく、育った環境によって、こんなにも価値観や考え方に違いがあるのか、と驚きました。自分の中の「普通」が崩れるという、日本にいたら経験できなかった素晴らしい経験をさせていただきました。ルワンダでは、時間を守らない人が多いし、多少ミスしても謝らずにヘラヘラ笑ってごまかすし、日常の中でイライラすることはたくさんありました。しかし、イライラしているのは大抵私や周りの日本人で、現地の人たちはあまり怒っていませんでした。ルワンダに限らず、これまでに旅した多くの国では似たような雰囲気でした。「自己責任」という言葉が最近よく使われるようになりましたが、日本人は「相手に迷惑をかけてはいけない!」という意識が少し強すぎるのかなと思います。「自分もミスをするし、相手もミスをする」と言う風に、お互いに多少のミスを許し合えるくらいの方が、ストレスが少なく、笑顔で過ごせるように感じました。身の回りのことに感謝の気持ちを持ち、他人のことを心から思いやれるような、優しい人の多い世界になって欲しいです。

「グローバルリレーションズ・プログラム (GRP)」参加者の声

HIC article: リク エンレイ 陸 燕黎さん (中国)

Hello there! I am Riku from the Research Institution for High Education of Hiroshima University. It has been almost two years since I arrived in Japan, a place of warmth and kindness. I remember when I got off the plane on the first day of arrival in Japan, I was anxious as I was alone in a totally unfamiliar environment with lots of baggage, when a kind gentleman offered me help. He helped me put the heavy baggage on a cart, led me to the ticket office, and even paid for the ticket before I could even realize. I wanted to give him the fee for the ticket but he insisted not to receive it, telling me it was a gift for my new life in Japan, and wished me good luck with my study. I live in Hiroshima International Plaza, a beautiful place of a non-profit organization which bears lots of social responsibility. The staffs here are lovely that they would greet you lively with a tender smile whenever you meet them. Near HIP there is also a kindergarten and a high school, and the warm greetings of the children and students always make me happy. During my first days at HIP, the most frequent thing I told myself was, next time I will take the initiative to greet with them. Also, I must mention my lovely neighbors, who are exchange students from various countries. Their hand-made

cake, their dark cuisine, their party games, their voices, and their companionship – they all make my life here as splendid as the firework in the sky. Finally, I would like to talk about the place where I study. I study in the middle of Hiroshima University, where there are many trees of cherry blossom and ginkgo. Pink spring, green summer, yellow autumn... you can see the changes of four seasons there. There are many professors at my research institution and staffs at the support office. Our director is a very knowledgeable person; his wife, Mrs. Kobayashi, is a great lady who generously offers her kind help and mental support whenever I am in hardship and distress. For example, she was my confidant when I was ill a while ago, when I delayed going to hospital because I was too afraid. She took me to the hospital the second day I confided my health issue in her, and with her company, even the hospital seemed less scary. I cannot say all that I would wish about my happy experience in Japan. After my new life in here, I think I know how to be a better person than before: to be warmer and more tender, and spread the love to everyone.



グローバルリレーションズ・プログラム (GRP) とは?

ひろしま国際プラザに入居して大学に通いながら、国際社会で活躍できる「実践力」を身につけることを目的にした、外国人留学生のためのプログラムです。現在、9ヶ国18人の留学生が参加しています。

そのほか、レジデントアシスタントの日本人学生2名が入居し、彼らを支援しています。

★入居使用料
1泊800円 管理費2,550円/月
月額24,950円～27,350円(水道光熱費込み)

★毎年、春と秋に入居者を募集しています。募集の際にはひろしま国際プラザのHIPに掲載します。

外国人留学生合同企業説明会を開催します

2022年3月11日(金)の13時から16時に、日本での就職を希望する外国人留学生を対象とした合同企業説明会を広島市留学生会館で開催します。外国人留学生の採用を予定している20社程度の出展を予定しており、現在、出展企業を募集しています。



参加対象学生は、主に2022年9月及び2023年3月に大学・大学院・短期大学・高等専門学校・専修学校を卒業予定の外国人留学生(既卒者含む)になります。他学年の方の参加も可能です。
日本企業で働く先輩留学生からのアドバイス(中国語・ベトナム語)もあります。
福山駅、西条駅から無料送迎バスを運行します。また、県外から参加する留学生には、交通費補助として2,000円分の図書カードを差し上げます。
日本での就職を希望する外国人留学生の皆さんの多数の参加をお待ちしております。
申込先 ▶ <http://bit.ly/3EUr2AP>



▲企業出展申込



▲留学生参加申込

交流部&留学生生活躍支援センター

〒730-0037
広島市中区中町8-18 広島クリスタルプラザ6F
TEL.(082)541-3777 FAX.(082)243-2001
E-mail/hic@hiroshima-ic.or.jp

■開館時間
月～金 10:00～19:00 土 9:30～18:00
日・祝日および年末年始(12/28～1/4)はお休みです。



研修部(ひろしま国際プラザ)

〒739-0046
東広島市鏡山三丁目3-1 ひろしま国際プラザ内
TEL.(082)421-5900 FAX.(082)421-5751
E-mail/hicc@hiroshima-ic.or.jp

■開館時間
【情報センター・図書室】
月～金 10:30～12:30, 13:30～19:00
(12:30～13:30閉室)
土・祝日 10:30～19:00
※日曜および年末年始(12/29～1/3)はお休みです。
※その他、臨時休室の場合は、HPで随時お知らせします。
※NGO交流室は休室中です。

